

日交研シリーズ A-722

平成 29 年度共同研究プロジェクト

「高齢者の自動車運転免許保有の価値」

刊行：2018 年 7 月

高齢者の自動車運転免許保有の価値

The value of driving license ownership of the elderly

主査：藤原 章正（広島大学）

Akimasa Fujiwara

要 旨

高齢ドライバーの運転操作ミス等による交通事故が急増し、自動車運転免許の返納制度の検討が現実味を帯びてきている。一方、公共交通サービスが十分でない地方の過疎地では、車が使えないと最低限の移動機会さえ担保できないという課題に直面している。以上の背景を鑑み、本研究では、(1) 免許返納に対する現在の高齢者の認識、及び、免許返納の可能性の把握、(2) 外出回数（トリップ発生）が減少することに伴う費用（トリップ発生価値）の計測、(3) 自動車の代替交通手段としての自動運転車に対するリスク認知の計測、について検討を行った。本研究から得られた知見は以下のとおりである。

第一に、専門家による運転能力診断と、診断結果に基づく免許返納の可能性について基礎的な研究を実施した結果、運転能力の低下が見られる高齢者においては、運転継続に伴うリスクと、免許返納に伴う利便性の低下の間でジレンマを感じていることが明らかとなった。また、簡易な運転能力診断手法として、スマートフォンにより観測された移動軌跡データを用いた診断方法を提案し、精度検証を行った結果、提案手法に基づく判断と専門家の判断との間に一定の相関が確認された。

第二に、高齢者が活動参加により得られる便益を計測するため、Unmet Needs 概念を導入し、移動の価値を計測する手法を提案した。

第三に、自動運転車に対するリスク認知を計測した結果、自動運転の導入形態・レベルに依らず、一定の社会受容性があることが示された。また、ハッキングの可能性が主観的に感じるリスクを増大させる一要因であることが明らかとなった。

キーワード：免許返納、移動の価値、リスク認知、自動運転車

Keywords：Return of the License, Value of travel, Risk perception, Autonomous vehicle